



桃山時代から続く、伝統の技。  
数ミリのズレも許さない、職人技を学ぶ。

桃山時代から続く伝統技能「左官」。この仕事には、目と手の感覚のみで、ミリ単位の精度で仕上げられる熟練の職人技が必要になります。東京都立田無工業高等学校では、「左官」を若い世代にも知ってほしいとの想いから、マイスター制度を活用中。生徒にどのような効果があるのか、ご紹介いたします。

## ものづくりマイスター派遣先学校

## 東京都立田無工業高等学校

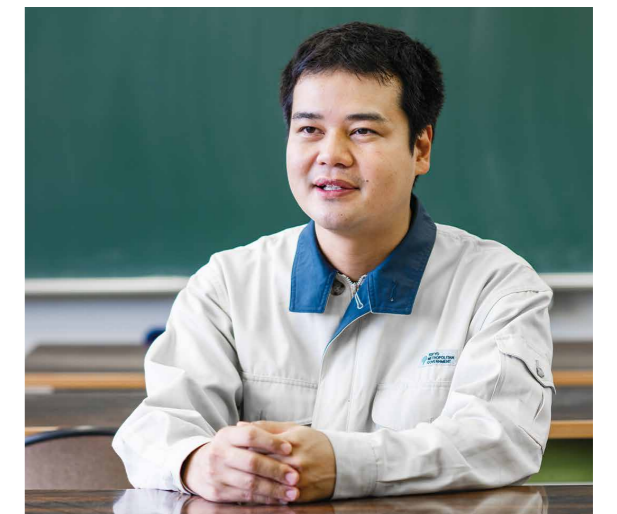
所在地	東京都西東京市向台町1-9-1	設立案	昭和37年
学科	機械科／建築科／都市工学科	学校長	早川 忠憲
		在校生数	480名



「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

職人のもつ肌感覚は、  
教科書では伝えられない。

左官の技能は、「長年の経験を積んだ職人にしかわからない部分」が大きい…。教科書の知識だけでは、その技を本当の意味で学んだことにはなりません。授業で左官のことを教えるにあたって、まずは「私たち教員が、本物の技を学びたい」との想いから、経験豊富で今も現役でご活躍される三浦マイスターに指導をしていただきました。マイスターの作業を見させてもらい、こてさばき、手際の良さ、ミリ単位の正確さなど、技能の高さに驚かされました。すぐさま翌年からは生徒も巻き込んで、実技指導をスタート。生徒たちは、「汚れた作業着が、頑張った証かな！」なんて笑いながら、技能の奥深さにふれています。実技指導の前は、左官職人を志望する学生はほとんどいませんでしたが、指導開始後は毎年2名ほどが左官職人に。いかに生徒が、技能指導によって興味を惹かれているのかがわかり、教員としても嬉しく思います。これからも、マイスター制度を利用し、若い世代に伝統を知ってもらいたいですね。



東京都立田無工業高等学校 建築科  
教諭 松原 昌忠さん

## 実施したカリキュラム

## 指導の概要

実施回数：10回 受講者数：建築科4名  
実施場所：東京都立田無工業高等学校 建築科実習室



## プログラム内容

- 1回目 技能の心構え、実技試験内容確認、こて板・架台づくり
- 2回目 こて返しの練習、墨出しの実演・練習
- 3回目 A面(立ち上がり)の練習
- 4回目 A面(立ち上がり)およびB面の練習
- 5回目 C面・D部の練習、きりつけごての使い方
- 6回目 通し練習1回目(苦手分野の把握)
- 7回目 通し練習2回目(苦手分野の練習)
- 8回目 通し練習3回目(不陸の修正、苦手分野の克服)
- 9回目 タイムトライアル1回目
- 10回目 タイムトライアル2回目



## 教育プログラムの解説

ミリ単位の精度が求められる左官の技能。このプログラムでは、技能検定3級の実技試験をベースとして、三浦マイスターが職人技を伝授。まずは、こて板を生徒につくってもらうことからスタート。そこから、実際の技能を見せながら、生徒に実践してもらいます。生徒の弱点や特性に合わせて、マイスターが個別指導。最終的には実技試験と同じ時間内で、課題を完璧に仕上げられるところまで到達させます。



座談会  
INTERVIEW

ものづくりマスター × 受講生  
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真\_中央)

三浦 秀吉さん

昭和49年生まれ  
平成24年度 1級技能士「左官(左官作業)」取得  
平成28年度 厚生労働省 ものづくりマスター「左官」認定

株式会社秀匠(よしみ)に所属。職人歴25年のキャリアを生かし、マスターとして匠な技能を伝承する。田無工業高校での指導は、今年で3年目に。多くの生徒たちに、「左官」の面白さと奥深さを教えている。

受講した生徒 (写真\_左)

鈴木 敦也さん | 建築科2年生

「カッコいい仕事」というイメージを持って、プログラムを受講した。

受講した生徒 (写真\_右)

佐藤 心さん | 建築科2年生

「ものづくりが大好き」。卒業後も、ものづくりに関わり続けたい。

受講した生徒 (写真\_左から2番目)

小澤 寛汰郎さん | 建築科2年生

マスターの技能に一步でも近づくために、日々、試行錯誤している。

受講した生徒 (写真\_右から2番目)

古曾 捺輝さん | 建築科2年生

ムードメーカー。いつも楽しみながら、技能には真剣に挑む。

感覚を掴めるまで、逃げないこと。  
答えは、自分の中にある。

**三浦さん** 僕がマスターになったのは、左官という日本の伝統的な技能を、若い人に知ってもらいたかったのが一番の理由。この技能はどうしても感覚的な部分が多いから、学校の先生では教えるのが難しい部分もある。だから、身につけてきた技能を、自分自身で多くの人に伝えていこうと思ったんだよね。みんなは左官の仕事にふれてみて、どうだった？

**古曾さん** 最初に、三浦マスターが実践して見せてくださった時、「簡単そう

だな」と思ったんですけど、実際にやってみると、全然ダメで(笑)。こんなに難しいことを、簡単にやるのは、さすがプロフェッショナルだなと思いました。

**小澤さん** どうしたら、手の感覚だけで、あんなに正確に手際よく仕上げられるんですか？

**三浦さん** 自分の感覚に向き合って、感覚を掴めるようになるまで根気強くやること。技能職でなによりも大事なことは、粘って粘って、やり続けることだと思う。僕だって、今でも悩むことはあるよ。それでも試行錯誤を続けていくと、自分なりのやりかたが見つかる。それが、この仕事の楽しさなんだ。

人は目標があったほうが、壁を乗り越えられる。

**三浦さん** この仕事は、いくらやっても極められません。それくらい難しく、やりがいのある仕事。実技指導ではその奥深さを味わってもらいたい。たとえば、モルタルは気温や湿度によって、固さが大きく変化する。まるで生き物みたいに。昨日と同じやり方が、今日は通じない。基準がないからこそ、肌感覚みたいなものが大事になる。

**鈴木さん** たしかに、「この前は上手くいったのに…」と思うことがよくあります。平らな面をつくるだけでも、自分がイメージした通りにうまく仕上がらなくて…。

**三浦さん** 左官の技能は、学生みんなにとっては、かなり難しいものだと思う。だからこそ、目標をもって取り組んでほしいな。「次はもう少しきれいに塗れるようになりたい」とか、「技能検定の3級に受かりたい」とか。動機はなん



伝統にふれることで、新しい発見がある。  
左官は、“学び”が尽きない。

だっていい。

**佐藤さん** 私はやってみて、左官に興味を持ちました。指摘してもらったことを、何度も繰り返しているうちに、少しずつできることが増えていくのは、すごく楽しいです。

**三浦さん** 嬉しいね。でも、ゴールは左官職人じゃなくてもいいからさ。努力しながら壁を乗り越えていくおもしろさを、感じてくれればいい。今の自分にできないことにチャレンジする経験は、きっとみんなの自信になるよ。

あえて一つだけ、上達への近道を挙げるなら…。

**三浦さん** 左官は、自分の目と感覚だけで、ミリ単位の精度まで仕上げることが必要がある。だから、教えるのがとても難

しい…。この仕事を始めた頃に戻った気分だったよ。

**佐藤さん** でも三浦マスターは、いい部分を褒めてくれるし、それぞれの弱点を丁寧に指摘してくれるから、楽しく学ぶことができています！

**三浦さん** ありがとう。僕もみんなから学ぶことは多いよ。全員に同じように教えて、人によって捉え方は違う。ここの持ち方だって一人ひとり違う。だから、みんなのクセや弱点をノートに書いておいて、次回の指導に生かすようにしているんだ。教科書やマニュアルでは伝えられないことだからね。

**小澤さん** 三浦マスターがこれまでに教えてきた中で、早く上達する人の共通点はありますか？

**三浦さん** 残念ながら、「こうしたら上手くいく」というのは、ないな(笑)。でも、

一つだけ挙げるなら、“素直さ”かなあ。純粋に楽しめるか、上手くなりたいと思えるか、それが大事だと思う。みんなは素直に取り組んでいるから、短期間ですごく上達しているね。この調子で、技能検定に取り組んだり、ほかの技能にも挑戦してほしいな。あとは、左官の技能を学んで発見したことを、ぜひ周りの友達にも伝えてください。

